



第五十九号

子どものためのれんしゅう曲

メルマガnoichi59号、今月のテーマは「子どものためのれんしゅう曲」、
新作動画配信のお知らせです。

未来を担う一人でも多くの子供たちが、箏の音に心惹かれることに願いをこめて、
この動画をお届けします。

メルマガnoichiも、お陰様で来月5周年を迎えます！



子どものための「れんしゅう曲」八月

Etudes for Children / August

<https://youtu.be/3lnoNtdTzys>

今月のメルマガ《noich》は、新しい動画作品の完成と配信のお知らせをさせて頂きました。既に何本か制作している私・奥田雅楽之一の動画作品ですが、今回の作品は、二〇一四年に私が作曲した組曲《子どものための「れんしゅう曲」》から『八月』という小曲を御紹介させて頂きます。この曲は、ロベルト・シューマンが作曲した有名なピアノ曲「子供の情景」に着想を得ました。「子供の情景」は、全十三曲から成る小組曲のことで、かの有名な「トロイメライ」を含む実に素晴らしい名曲集ではありますが、私がピアノを習っていた子供時代、「子供の情景」を通じてピアノを好きになったという経験から、箏でも、子供たちのための小さな組曲を作曲してみようと思い、一昨年から作曲を始めました。「八月」は、子供たちにとって楽しい嬉しい一ヶ月の夏休みであります。不思議なことに、大人になった今も夏休みの記憶は鮮明で、あの日あの時の思い出が、あたたかく、やわらかく、まるで昨日のことにように心に広がります。そんな色褪せない思い出を箏の音楽にしてみました。

この曲は、箏に初めて触れる人のレベルに合わせて作曲しました。また、曲名にあります「子ども」には、現在から未来へと、一人でも多くの子供が箏に心引かれてほしいという、私の強い想いが込められています。従って、ピグナー向けの旋律パート（本手）は、旋律はごく単純、手法も極めて初歩的になっています。それに伴う伴奏パート（替手）は、いわゆる師匠が演奏することを想定しているため、一定の力量と音楽性が求められます。

私の作曲の原点は幼少期の体験にあると思っています。私の両親は、若い頃からレコードを聴く趣味があり、私は子供の頃から多くの音楽に親しみ、特にクラシック、ジャズに強い影響を受けて育ちました。箏は六歳で習い始めましたが、箏は箏、洋楽は洋楽と一線を画するようにしていましたので、当時は両者相容れない関係にありましたが、

↓次ページにつづく



箏で作曲をするようになって、箏にあらゆる音列を求めるようになり、私の中にあつた音楽の国境がなくなつていったように感じています。

私の曲を動画作品にしたのは、舞踊曲《木花咲耶姫》、独奏曲《パレード》に続いて今回が三曲目になります。私の作品が今後どのように評価され、音楽界に位置付けられていくのか、自分には到底計り兼ねますが、作曲をし始めた初心でもある「自分に正直であること」が、作曲をする上で最も大切なことだと信じて、これからも純粋に表現していければと思っております。ご清聴、ありがとうございます。

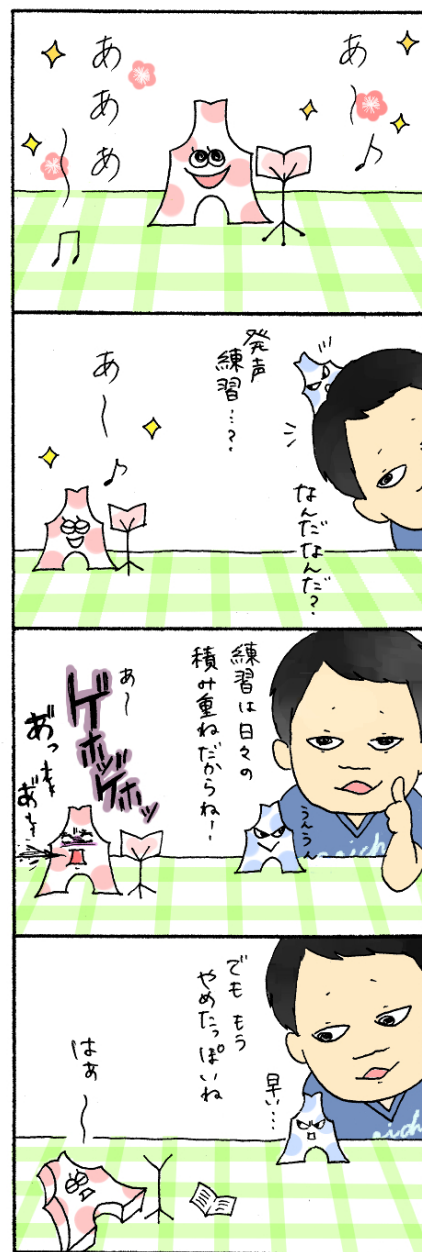


Illustration: morimoe

◎あともがき◎

一年を二十四に分けた二十四節気では、今は「穀雨」にあたる。穀物が育つために天から雨と栄養が蓄えられる時期だ。そういえば四月は思いのほか雨が多い。今週も冷たい雨が降っていた。春とはいえ、まだまだ寒さが残っている。その二十四節気をさらに三つに分けた七十二候では「霜止出苗（しもやみてなえいずる）」。「霜がおりなくなつて田植えの準備が始まる時期。五月に入れば「牡丹華（ぼたんはなさく）」。「冷たい雨も終わって初夏の花が咲き始めるのだ。」

「穀雨」が終わると次は「立夏」。鯉のぼりが気持ち良さそうに泳ぐ、一年で最も気持ちのいい季節となる。七十二候では「蛙始鳴（かわずはじめてなく）」、「蚯蚓出（みみずいずる）」、「竹笋生（たけのこしょうず）」と続く。夏に向けて、様々な生き物が現れて活動を始める時期だ。というわけで今回の動画の隠れテーマは「夏の思い出」。田舎に里帰りした時に録りだめた映像が中心になっている。少し気が早いけれど、夏の動画で子どもを思い出してもらえたらと思っています。

グラフィックデザイナー (http://www.1398.jp) みやはらたかお

